

無所属 町民派 現 島本町長

# 山田 こうへい

私たちも応援しています！

|       |            |
|-------|------------|
| 濱田剛史  | 現高槻市長      |
| 福岡洋一  | 現茨木市長      |
| 川口 裕  | 前島本町長      |
| 小山 登  | 公認会計士      |
| 野中康子  | 元島本町立中学校教諭 |
| 矢田部佳子 | 楽楽子ども食堂代表  |
| 池田真己  | オペラ歌手      |



小さな町の、かけがえのない毎日を大切に。

島本町の未来は、私たち一人ひとりの日々の積み重ねから生まれます。

子どもたちの笑顔、高齢者の安心、自然とともにある暮らし。

そして、ふとした日常の中に、思いやりやふれあいを感じられる町でありたい。

これまで8年間、皆さんと一緒に、一步ずつ着実にまちづくりを進めてきました。

これからも、島本町の未来を、皆さんと歩めるようよろしくお願いいたします。

島本町長 山田紘平



ちい まち ゆた く  
**小さな町の豊かな暮らし**

▶ 町民が参加する。町民と実行する。▶ 小さくても魅力的な島本をつくる。

# ちい まち ゆた く 小さな町の豊かな暮らし

▶町民が参加する。町民と実行する。▶小さくても魅力的な島本をつくる。

## 3期目にめざすまちの未来

「暮らしやすさ」の次のステージへ。

いま島本町では、住宅の増加により、まちがにぎわい、まちの姿が少しずつ変わりつつあります。これに伴って、景観や交通などの面で新たな調整が求められるようになっていきます。

そのため、都市計画マスタープランの改訂をはじめ、景観計画の策定、景観行政団体への移行、J R島本駅西地区まちづくりガイドラインの策定、立地適正化計画の策定、教育環境保全のための住宅開発に関する指導要綱の施行、そして建築物の高さ規定に関する検討業務などを進めてきました。

3期目では、地域特性に応じた建築物の高さ規定の導入を進めるとともに、福祉ふれあいバスの抜本的な見直しや道路整備計画の策定など、ソフト・ハード両面から交通環境のグランドデザインを描いていきます。誰もが安心して暮らし、移動しやすいまちを目指して、これからの島本町の未来を、住民の皆さんとともにつくっていきます。



## 思いやりとふれあいのある持続可能なまち

住民同士の支え合いが生まれる温かな地域社会を育むために、行政は対話と情報共有を大切に、住民の皆さんが主体的に関われる仕組みづくりを進めます。多様な価値観を認め合い、誰もが安心して暮らせる共生のまちを、住民と行政がともに築いていきます。

- 関係団体とも連携し動画配信など多様な手法を用いた人権啓発
- ハラスメント対策の強化により安心して働ける・暮らせる環境づくり
- 住民の声を町政に生かす住民自治の推進
- 地域住民が自主的に運営する身近なコミュニティである自治会への支援
- 申請書の記入が不要になる「書かない窓口」等のデジタル化の推進で住民の利便性を向上



## 子どもたちを健やかに育むまち

子どもたちは、町の未来を担うかけがえのない存在です。安心して子どもを産み育てられる環境と、学びや遊びを通じた成長を地域全体で支え風土を根付かせます。これからも、子育て世代がこの町を選び、子どもたちが夢を育める島本町を、みなさんとともにつくっていきます。

- 小規模保育所誘致や町立幼稚園の3年保育や給食導入による待機児童対策
- 「遊びや生活を通じた就学前の学び」と「主体的に自己を表現する小学校低学年の学び」をつなぐみづまるキッズカリキュラムの推進
- 学校に行きづらい子どもへの多様な学びや過ごし方を支える体制づくり
- 家族の介護や世話を担うヤングケアラーと家族への支援
- 子どもの居場所と食を支える子ども食堂などへの支援を拡充



## 誰もが支え合い、生涯元気に暮らせるまち

- 未耐震で老朽化している町立体育館と温水プールの整備
- 高齢者や障がいのある方の生活を支えるごみ出し支援サービスの充実
- 子どもの健康を守る小児インフルエンザワクチン接種費用の助成
- がん患者の心のケアを支えるアピアランスケア（外見ケア）への助成
- 骨髄移植を支える骨髄バンクドナーへの費用助成制度の創設



## 自己紹介

### 山田 紘平（やまだ こうへい）

1984年5月生まれの40歳。島本町生まれ、島本町育ち。家族は妻と娘。山崎幼稚園、島本町立第二小、第二中、関西大倉、滋賀大学教育学部環境教育課程卒。幼少期は島本町の野山を駆け回り、島本町の自然と地域の人々の温かさに育まれてきた。学生時代から青少年指導員などの地域活動に参加。町内外の様々な団体でボランティアリーダーとして野外教育活動に取り組む。前職の大阪ユースホステル協会では、宿泊・施設管理業務や無人島キャンプなどの企画運営。2017年「島本町を守りたい」という強い思いから町長選挙に立候補し32歳で当選。趣味はキャンプ、ボードゲーム、写真撮影。



## 〈2期目の成果の一部を紹介〉

- ・役場新庁舎建設
- ・待機児童ゼロを達成
- ・子ども医療費助成を18歳まで拡充
- ・3歳6か月健診に屈折検査を追加
- ・産後ケア事業の実施
- ・こどもすこやかセンターを設置
- ・町内初の病児病後児保育施設を整備
- ・学童保育の土曜日開設時間を拡充
- ・小中学校体育館にスポットクーラー整備
- ・学校トイレの洋式化100%を達成
- ・コンビニ交付サービス開始（戸籍、住民票、印鑑証明等）
- ・ふれあいセンター等の施設の貸室予約をオンライン化
- ・ブックポストを水無瀬駅と島本駅に設置
- ・尾山遺跡の池泉跡を桜井せらぎ公園内に復元移築
- ・水無瀬家に伝わる古文書等の資料を調査しWEBで発信
- ・ジャパニーズウイスキー100周年イベント開催
- ・高齢者の自転車ヘルメットの購入費用助成
- ・高齢者の補聴器の購入費用助成
- ・50歳の各種がん検診と65歳以上の肺がん検診無償化
- ・PFASなど水質検査強化
- ・LINE公式アカウントを活用した情報発信
- ・ふれあいセンターに住民の学習・交流スペースを整備
- ・人権文化センターに無料の学びとほっこりルーム開設
- ・住み続けたい街全国1位（大東建託調査2021年）
- ・府内で唯一「自立持続可能性自治体」に分類（人口戦略会議分析2024年）



## 自然と調和した快適なまち

- 豊かな水資源を守るため地下水90%の水道を堅持
- 効率的かつ持続可能な廃棄物処理のためごみ処理の広域連携の推進
- 脱炭素や資源循環に向けた取組を通じて地球環境に配慮した施策を推進
- 景観と住環境を守るため地域ごとの特性に応じた建築物等の高さ規定の導入
- 福祉ふれあいバスの抜本的な見直しや道路整備計画の策定など長期的な視点から快適で誰もが移動しやすい交通環境のグランドデザインを描く



## 災害に強い安全・安心なまち

- 命と暮らしを守るための消防の広域連携体制を強化
- 担い手確保や装備の整備を進め消防団を活性化
- 住民の財産と安心を守るための特殊詐欺対策の推進
- 要支援者を災害時に守る個別避難計画の作成を推進
- 雨水幹線などのハード整備推進



## 魅力と活力、にぎわいのあるまち

- 国民的財産である文化財の保護と調査研究の推進
- ジャパニーズウイスキー発祥の地としての誇りを活かしウイスキー文化をまちの魅力として熟成させる
- 水無瀬駒・中将棋の伝統文化の継承
- 農地の多様性を活かす都市農業の推進
- J R島本駅東側エリアに人の流れと活気を生むにぎわいづくりを展開

